



電 報

永代美知代

（上）

彌生は學校から歸る道々、すつと不安に胸を蕪かせながら、駈けて、殆んど駈け續けました。『お嬢様！あんまり駈けて轉ぶといけません。』

『何ですか委しい事は存じませんが、大分お悪いやうなお電報で』

『お嬢様！あんまり駈けて轉ぶといけません。』

『私一寸と町まで行つて来るから、彌ちゃんはお祖母様の御傍に居て頂戴。』

『え、町へは何の御用？』

『泣くんちやありませんよ、彌ちゃん、兄様はね、多分おなくなりなすつたらしい、だから銀行からお金を引出して置なくちや……』

『まあ……姉様、姉様、兄様はもう……』

『泣かないで、ね、まだハツカリした事は解らないけれど、萬一の場合にはキトクのお電報を打つ御病氣なお祖母様が急に氣落ちをなさるといけないからつて、母様から今朝お手紙が届いてるんです』

『誰か、千恵さんかい！』

『でもお祖母様……』

『お祖母様はオイ、お泣きなさい。』

『泣くんちやありませんよ、彌ちゃん、兄様はね、多分おなくなりなすつたらしい、だから銀行からお金を引出して置なくちや……』



『泣くんちやありませんよ、彌ちゃん、兄様はね、多分おなくなりなすつたらしい、だから銀行からお金を引出して置なくちや……』

『まあ……姉様、姉様、兄様はもう……』

『泣かないで、ね、まだハツカリした事は解らないけれど、萬一の場合にはキトクのお電報を打つ御病氣なお祖母様が急に氣落ちをなさるといけないからつて、母様から今朝お手紙が届いてるんです』

『誰か、千恵さんかい！』

『でもお祖母様……』

『お祖母様はオイ、お泣きなさい。』

『泣くんちやありませんよ、彌ちゃん、兄様はね、多分おなくなりなすつたらしい、だから銀行からお金を引出して置なくちや……』